

東京成徳大学 八千代キャンパス 図書館だより

Vol. 31

2017. 04. 01 発行



図書館運営委員会

4月23日から5月12日まで「こどもの読書週間」

子ども達にもっと本を、子ども達にもっと本を読む場所を！との願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に誕生しました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間（5月1日～14日）でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より現在の4月23日（世界本の日・子ども読書の日）から5月12日に期間が延長されました。

開始当時から、図書館・書店・学校を中心に子ども達に本を手渡すさまざまな行事が行われて来ました。

幼少の時から書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、子ども達にとってどんなに大切なことか……。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考える時、それが「こどもの読書週間」です。

参考情報：公益社団法人 読書推進運動協議会

<http://www.dokusyo.or.jp/jigyo/kodomo/kodomosozai.htm>



4月は本の記念日がたくさん

● 「国際子どもの本の日（4月2日）」

国際児童図書評議会が制定し、絵本や児童書など子どもの本への関心を高める日。デンマークの童話作家、アンデルセンの誕生日にちなみ定められました。

● 「サン・ジョルディの日（4月23日）」

スペイン・カタルーニャ地方発祥の伝統的な日で、大切な人に1本の赤い薔薇と1冊の本を贈る日とされます。

また、この日は小説『ドン・キホーテ』の著者ミゲル・セルバンテスの命日（1616年）でもあり、さらには『ハムレット』や『ロミオとジュリエット』で有名なウィリアム・シェイクスピアの誕生日（1564年）であり命日（1616年）でもあるため、文学に非常に縁の深い日であることから本を贈るという風習が広まりました。そしてこの日は、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）が制定した「世界図書・著作権デー」（世界本の日）であり、日本では「子ども読書の日」です。このように4月から5月にかけて記念日・関連イベントも多く、「こどもの読書週間」は年々大きな盛りあがりを見せています。



いよいよ新学期が始まり新入生はもちろん、進級された皆さんも気持ちを新たに張り切っている方が多いのではないのでしょうか。読書や勉強に、また勉強の合間の息抜きに是非、図書館へお越しください。



学生による

Book review



『霊能動物館』
著者 加門七海
発行社 集英社
2014年11月10日発行
図書館3階伝統ゼミ選書

昔の人々は動物のことを自分たちの環境下とは異なる場所に棲む謎の多いものだと感じていたのだろう。動物にまつわる伝説や民話が多い。神と混同されていたり、あるいは神の使いや妖怪のような扱いを受けていたりする話もある。こうした伝承を元に著者は神社を訪れたり、神秘的な体験をした人に話を伺ったりしている。この本で取り上げられている動物は、狼、狐、竜蛇、狸、鳥、馬、憑きもの、猫、人魚。現在でも狐や狸が人を化かすといった話は耳にするだろう。しかし鳥や馬といった動物や人魚のような妖怪の話はあまり聞かない。歴史に埋もれて見えなくなってしまった動物達と人間との関係を様々な方面から見直そうという試みがされている。自分の気になった動物の項目だけでも読んでみては如何だろうか。昔の人々がその動物をどのように思っていたのか。また、今現在ではどのように思われているのかを比較をするだけでも面白いだろう。

～お知らせ～

春季長期貸出の返却日は、**4/17(月)**です。
返却忘れにご注意ください！



みなさんからのリクエストを
受け付けています。
遠慮なくリクエストしてね！
お待ちしております♪

